

# 原告団

遺族・CO裁  
判、災害責任  
追及、特集号  
第二百二十五号

## 原告団レポート

CO患者 故高口 弘さん

### 路上で倒る

昭和五十二年の六月十日、三池のCO患者のひとりが高口弘さんといふ、直接の死因は高血圧症だった。これでCO患

者(三池労組関係だけ)の死者二十一人。何という、命の重さか。

高口弘さんは死後四十二日前の四月二十九日の朝、四山の、福岡県と熊本県との県境の路上で倒れた。たのんでた病院だからだった。

大牟田市大字甘木四七四の一の家に、電話がかかってきた。まったく知らぬ人からで、留守居の妻八重子さんが受話器をとると、彼が倒れた知らせだった。

驚いた八重子さんが、居合わせた次男の孝弘さんを同伴、いそぎ車で現場に駆けつけると、高口弘さんは県境のある自転車置場に寝かされていた。すでに意識不明におちいり、言葉はなかった。

彼は常日頃から、篤く天理教を信仰してきた。御本部(奈良)で毎年春秋の二回きまって営まれる大祭には参詣を欠かしたことはない。まして、毎朝早朝から、市内の一寺院で行なわれる勤行には、日課のように楽しみながら参加していた。そのため彼は毎朝三時半にはもう起き出で、まだ人通りのチラともしない通りをバイクを飛ばしていったのだった。

### 早過ぎた死

現場にかけつけた八重子さんはとどろき、夫の体を三井天徳病院に運んだ。彼が、かねて診療をたのんでた病院だからだった。

「当病院では手当がむづかしい」といって、そのまま大牟田労災病院へ。

ところが検査の結果、労災病院でも処置できないことがわかり、三たび大牟田市立病院へ。さうそく、頭蓋を切り開いての手術がほどこされた。血管が破れていてそのままでは命が危い、というところが検査の結果明らかになっていったのだった。

手術はうまくいき、後の経過もよかったという。もっとも右半身が不随、言葉が出なくなっていた住んだ。

## 歴然と残る傷あと

大爆発さえなかったら、優れた社会人だった人

### 会社が犯した罪は許せぬ

千重は、五人。長女のチヤキさんが二十三年七月十二日生まれ。ひき続き二十五年五月十一日に次女順子さんが、二十八年十一月十七日に長男の弘華さん、三十二年二月二十六日に次男の孝弘さん、三十二年五月十九日に末っ子の久子さんが生まれた。

前時代的な、封建的身分制度にもとづく労働条件にせよ、それなら働く労働者にとつて、五人もの子どもを抱えながらの暮らしはきつかった。ましてこの四十九年の六月三日他界するまで高口弘さんの妻のトクさんの面倒も、ともに見てきたのだった。

「こんな主人でしたか、亡くなるとバツタリです」とは妻八重子さんの述べ。

「症状軽いが、あの日、乙方に属していた彼は

### 傷痕は歴然

彼は、職場復帰も早かった。新港作業所での雑作業から職場生活は、やがて選炭場へ。五十一年に定年のため退職するまで、選炭工として働き続けることができたのだった。

だが、そんな彼にも、CO中毒の傷痕は歴然と残っていた。被災後二年ばかりすると、内臓器の異常が急に目立ち始めてきた。幾たびとなくくり返された入院生活。開腹手術もやった。

金子副郎医師の診断書によれば「ちゃん、情動障害、記憶障害、計算障害などの精神症状が指摘されている。現に、彼が、ある高等看護学校に学んでいた頃の次女の順子さんに

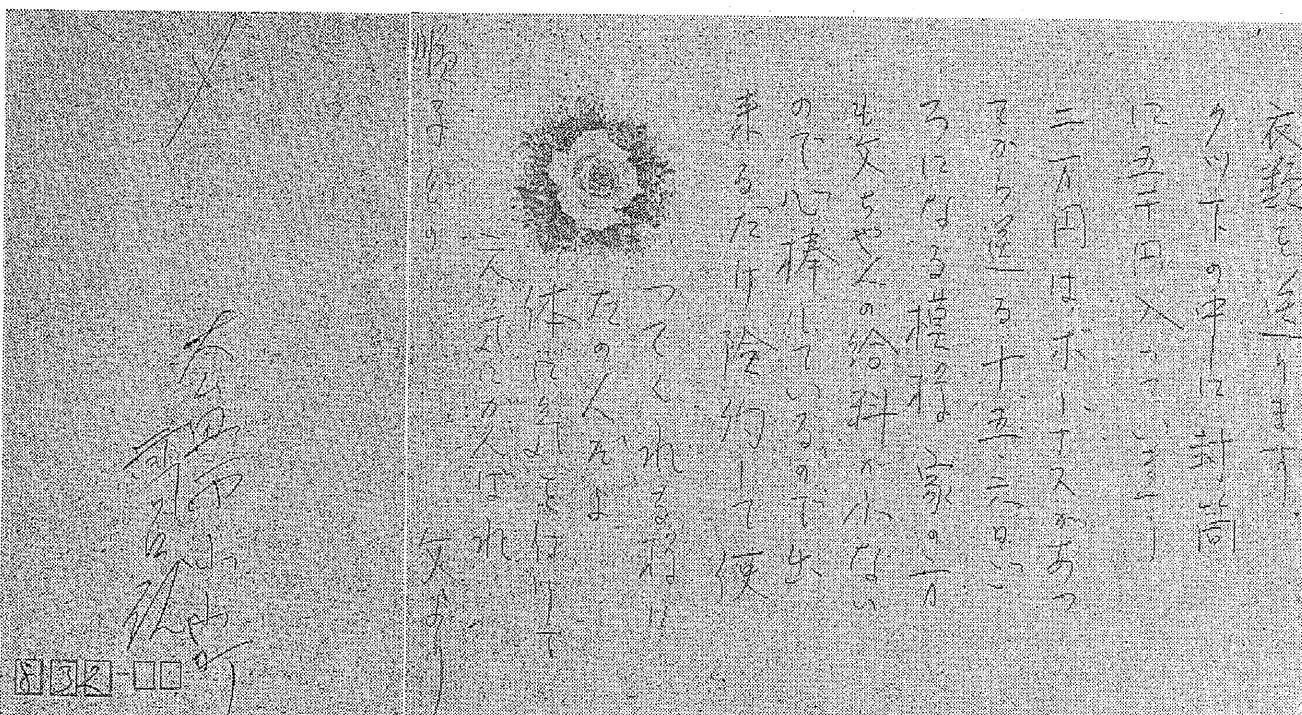
「お前も長く働いたおかげで、夫婦そろって厚生年金がもらえる。子どもたちに面倒をかけるに生きていける。これからは二人でゆっくりに暮らしていけばいい」彼の口癖だったという。だが、そういつてくれた彼は、もうこの世にいないのである。

### のぞく怒り

今、トクさんは逝き、五人の子もたはそれぞれ成長した。早や、孫が数人も……。

彼の退職に前後して、現在住んでいる家も手にはいって、「お前も長く働いたおかげで、夫婦そろって厚生年金がもらえる。子どもたちに面倒をかけるに生きていける。これからは二人でゆっくりに暮らしていけばいい」彼の口癖だったという。だが、そういつてくれた彼は、もうこの世にいないのである。

余りにも短か過ぎた、CO患者高口弘さんの生涯。「主人の死を早めたのは、CO中毒以外には考えられませぬ。大爆発さえなかったら、こんなにも早死にする主人ではありませぬでしたし、社会人として、立派に働くことのできた人でした。会社の罪は許されませぬ」——見るからに人の好きをうな八重子さんの表情が、一瞬際張りにこぼれた。



写真上は、被災前次女の順子さんに書いた、見ごとな筆跡の高口さんの手紙。左は、被災後同じように順子さんに書いた手紙の封筒の裏。読める字が少く、筆跡がたどたどしい。下の写真は、新居の庭にさびしく立つ、妻の八重子さん。



### 症状軽いが

あの日、乙方に属していた彼は